

## 個名点呼、敬称「…君」づけ強要の狙いは！？

3月12日、ダイヤ改正の日を契機として、大阪修繕車両所の始業点呼では修繕班長が出席するようになり、統一性を持たせるためにA担当社員が個名点呼をとる時に敬称を「…君」づけにするように管理者が強要し、若干点呼の様子が変わりました。

確かにそれ以前まで、敬称を「…君」づけ、「…さん」づけ、年齢によって「…君」づけ「…さん」づけを使い分けるなど、A担当社員によって色々ありましたが何も問題はありませんでした。従って、別に敬称を「…君」づけ「…さん」づけにこだわる必要は無いと思われるのですが、会社・管理者はこだわりをもって先輩であれ、年上であれ、全ての人の敬称を「…君」づけにするよう強要してきたのです。

管理者は、敬称を「…君」づけに統一する理由を「統一性」を持たせるためと表向きには言っていますが、その背景に「命令と服従」「規律の徹底」が職場で罷り通るよう、A担当社員に「…君」を強要していると思われます。

以前から会社は、A担当社員（技術主任）に管理者の仕事の一部を担わせようとしています。その一つが「主任レポート」であり、今回の敬称を「…君」づけに統一するのもその一環ではないかと思われます。

## 「会社・管理者対社員」から「A担当社員（技術主任）対社員」へ！？

A担当社員（技術主任）に管理者の仕事の一部を担わせるためには管理者とA担当社員（技術主任）の間で「命令と服従」の関係が構築されていないと出来ないことであり、そのための一つとして今回の敬称を「…君」づけに統一ということがあるのではないかと思われます。

今回の敬称を「…君」づけに統一ということ自体は、問題があるというほどの事とは思いませんが、その背景をしっかりと見据えておかないと会社・管理者の狙いである「命令と服従」「もの言えぬ社員」「もの言えぬ職場」に一步一步着実に推し進められてしまいます。

仮にこのまま会社・管理者の思惑通りに会社・管理者とA担当社員（技術主任）の間に絶対的な「命令と服従」の関係が出来てしまうと、管理者が言う（強制）のではなく、管理者でない同じ社員の立場のA担当社員（技術主任）が言うことだからということになってしまいます。

そうすることで会社・管理者対社員であったことがA担当社員（技術主任）対社員という構図が作られ、結果として会社・管理者が社員を従わせやすくなり、会社の狙いである「命令と服従」「もの言えぬ社員」「もの言えぬ職場」が進むこととなります。この会社・管理者の狙いを把握した上で、これからも言うべきことは言える職場をみんなで創りましょう。

私たちは明るく働きやすい職場の実現に向け、

人間らしく、労働者らしく闘います！